小学校四年の部　佳作

梨屋アリエ著『ココロ屋つむぎのなやみ』文研出版

すてきなココロになるために

弘前市立大成小学校　水野瑛梨

わたしは、『ココロ屋つむぎのなやみ』という本を読みました。この本をえらんだ理由は、〝ココロ屋〟がどんなところなのか気になったからです。

この本は、やさしくてがまん強い、ちかこのことが苦手な主人公のつむぎが、勝負好きで意地悪なちかこに意地悪をされて、それがきっかけで、つむぎがひろきくんに教えてもらった〝ココロ屋〟でココロを入れかえるお話です。

〝ココロ屋〟は、世界中を旅していて、ココロを入れかえたいと思うと、どこからともなくあらわれ、お店の中にはいろいろなココロがあり、ココロを入れかえられるふしぎなお店です。

わたしがこの本を読んで一番心に残った場面は、つむぎが〝ココロ屋〟の主人のウツロイはかせと会話をするところです。

つむぎはこう言いました。

「苦手な子とも、仲良くできたらいいですよね。その子にいいところがあるのも知っているんです。でもやっぱり、どんなにがんばろうとしても、苦手に思ってしまうんです。」

つむぎは、苦手なちかこに意地悪をされています。それなのに、仲良くできたらいいなと言っていたので、つむぎはとてもやさしいなと思いました。

つむぎは、意地悪なココロやダメなココロ、空っぽなココロと次々に入れかえましたが、結局、ふくざつな自分のココロの方が自然でいいと思い、〝ココロ屋〟でココロを入れかえるのをやめました。

わたしがこの本を読んで分かったことは、入れかえたひとつだけのココロよりも、ふくざつな自分のココロの方がすてきだということです。

わたしのココロは、親切なココロや弱気なココロ、おおざっぱなココロの他に、まだわたしが気づいていない、たくさんのココロがまざってできていると思います。わたしのココロには、強いココロややさしいココロが足りないと思うので、

ふやせるように努力したいと思います。

そして、自分のココロを大切にして、今の自分のココロよりも、もっとすきてなココロになるように、いろいろなことをけいけんして、成長していきたいと思います。